

# 三原市立宮浦中学校第 第1学年 国語科学習指導案

## 単元名： 学びをひらく～桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」

授業者：三原市立宮浦中学校 河隅 道子

- 1 日 時 : 平成27年6月8日(月) 第5校時  
 2 場 所 : 1年1組教室  
 3 学年・学級 : 第1学年1組(38名)  
 4 単元名 : 学びをひらく～桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」(光村図書平成24年版)

### (1) 単元観

本単元は、中学校1年生の第一単元である。使用教科書における本単元の構成は、次の通り。

物語	杉みき子「にじの見える橋」
話す・聞く	友だちをみんなに紹介しよう 取材してスピーチで伝える
説明	稲垣栄洋「ダイコンは大きな根？」
説明	桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」
書く	わかりやすく説明しよう 観点を決めて書く

本単元を通して、学習指導要領第1学年1目標(3)「目標や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる」ことを意識して指導する。

そのために、学習の配列を次のように再構成し学習が効果的なものとなるよう工夫する。

物語	杉みき子「にじの見える橋」
説明	桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」
説明	稲垣栄洋「ダイコンは大きな根？」
書く	わかりやすく説明しよう 観点を決めて書く
話す・聞く	友だちをみんなに紹介しよう 取材してスピーチで伝える

教材の配列を工夫することで、読むことの学習を通して学んだことを書くことにつなげ、さらに話すこと・聞くことへ関連させ、理解したことを表現させる。こうした活動的な学習の展開を通して、確かな理解を図っていく。そのために、単元を貫く言語活動を軸にして教材間の関連を図り、単元としての目標を達成するよう指導を工夫する。

本単元を貫く言語活動としては、ものの見方や考え方を広げるために、立場を変えて考えることとする。具体的には次の通り。

言語活動の具体	宮浦版「小さな町の風景」を創作(普段の町を見方を変えてみる)	杉みき子「にじの見える橋」
	なりきり作文(家の人の立場で自分を描写)	桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」
	ショート・ストーリー(別の視点でとらえる)	稲垣栄洋「ダイコンは大きな根？」
	なりきり作文の秘話紹介	友だちをみんなに紹介しよう 取材してスピーチで伝える
	宮浦版「小さな町の風景」よりお気に入りの場所のCMフリップ作り	わかりやすく説明しよう 観点を決めて書く

本単元の学習と関連して、第二単元として「読書と情報」を次に学習する。学習指導要領に示す「読書を通してものの見方や考え方を広げる」ことに具体的につないでいく上で、単元相互の関連も図りながら指導する。

単元としての課題解決の具体的な指導過程は、課題発見、課題追究、課題解決、新たな課題発見の螺旋構造をとるものとする。

加えて、漢字の読み書き等の国語の特質に関する事項を習得型の帯単元として組み入れるよう工夫する。こうすることで、基礎基本の習得としての帯単元と並行して活用・探究型の学習活動を行うことができる。帯単元の評価については、適宜小テストを取り入れるものとする。

## (2) 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本校生徒の全体的な課題傾向を、基礎基本学習状況調査等をもとに研究主任が分析し、本校として以下の資質・能力の育成に重点を置く必要があると指摘している。資質・能力の分類については、本校がパイロット校として推進する本県の示す「学びの変革」による。

【知識・スキル】①課題解決力②知識・情報活用能力③表現力④コミュニケーション能力

【意欲・態度】⑤協調性・柔軟性⑥責任感⑦主体性・積極性

【価値観・倫理観】⑧自己理解⑨共感力⑩公共心⑪人としての思いやり

学習指導要領国語科の目標「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める」ことと、本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわりについて3点に重点を置き、整理する。

### (i) 【知識・スキル】③表現力

本単元「学びをひらく」は、読むこと（文学的文章1教材、説明的文章2教材）、話すこと・聞くこと・書くことのそれぞれで構成されている。

読むことのうち、文学的文章では、空所を読む、山場を読む、作者の意図を読む等の学習を通して基本的な読みの力を育てる。そして、学んだことを単元を貫く言語活動を通して「宮浦版小さな町の風景」創作につなぐ。このことを通して、見馴れた風景としての町を視点を変えて捉え、新たな課題を発見し、得た発見を生かして創作し豊かな表現力を育成する。

読むことのうち、説明的文章では、全体と部分、具体と抽象の関係に注意して読む等の学習を通して基本的な読みの力を育てる。そして、学んだことを単元を貫く言語活動を通して、「ちょっと立ち止まって」では〈なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する～〉を創作する。「ダイコンは大きな根？」では〈ショート・ストーリー～別の視点でとらえる～〉を創作する。このことを通して、ものの見方や考え方を広げ筋道立てた表現力を育成する。

話すこと・聞くことでは、グループ学習などの双方向型の学習展開の中で、相手の反応を踏まえながら話す・聞く等の基本的な話す力・聞く力を育てる。そして、学んだことを単元を貫く言語活動を通して、既習事項との関連性を図って指導する。具体的には、「ちょっと立ち止まって」の学習において創作した〈なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する～〉の秘話を友だちに取材し、構成を工夫してスピーチする。このことを通して、話すこと・聞くことに関する表現力の基本を育てる。

書くことでは、根拠を明確にして書くこと等の基本的な力を育てる。そして、学んだことを単元を貫く言語活動を通して、既習事項との関連性を図って指導する。具体的には、「にじの見える橋」学習後に創作した「宮浦版小さな町の風景」を元に、お気に入りの場所のCMフリップ作りを行う。このことを通して、文章を図表やグラフに設定し直し思考の枠組みを広げ、図表を活用した表現力を育成するものとする。

### (ii) 【意欲・態度】⑤協調性・柔軟性

本単元「学びをひらく」での単元を貫く言語活動は、双方向型の展開を行う。作品の創作に際しては、学習の

てびきを用いて新たな発見を導くものとする。他者との相互交流を通して、自分のものの見方や考え方を広げることによって別の角度から内容を検討し、より良いものとするができる。その意味で、他者の考えを受け止めるという思考の柔軟性を育成する。

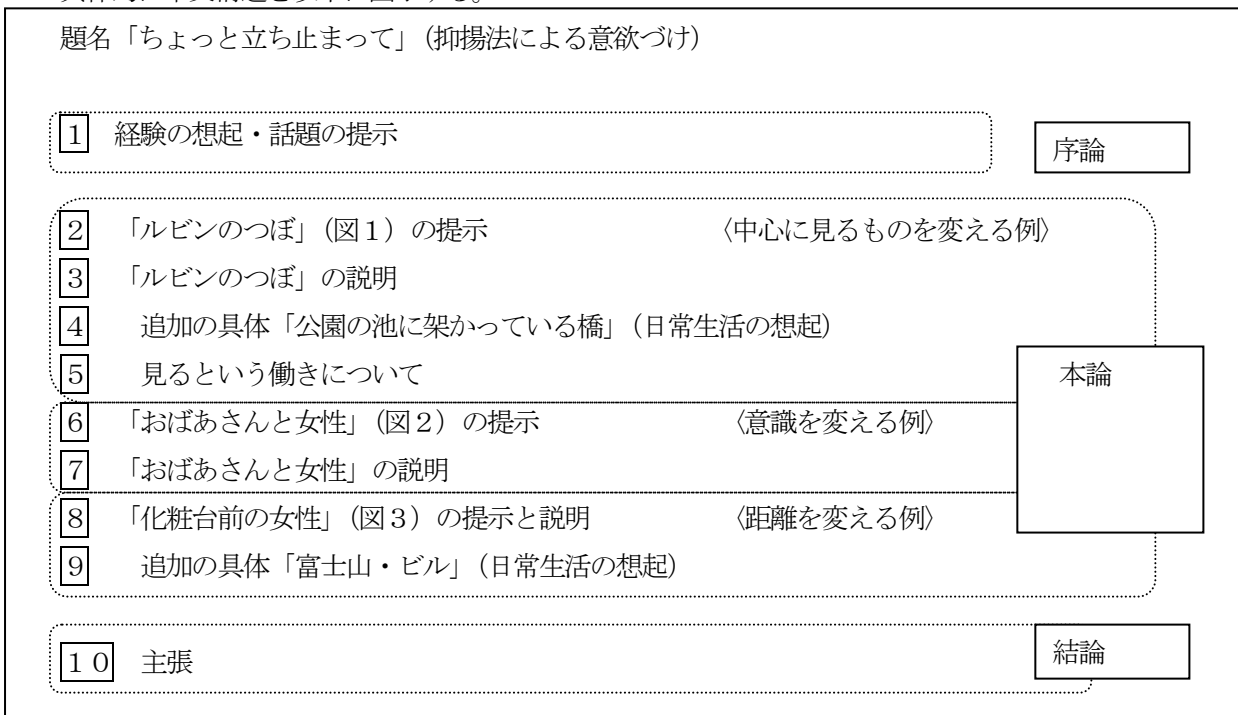
(iii) 【価値観・倫理観】⑧自己理解

単元を貫く言語活動を通して、作品を創作する過程では双方向型の授業展開を行う。別の意見に触れることで視野を広げ、他者の考えと比較して意見の一致点や相違点をとらえる。そして、その差異から何を学ぶのか判断し、別の立場に立ってみることでものの見方や考え方を広げていき、自己理解力を育成する。

**(3) 教材観**

本教材は、評論家である桑原茂夫著『だまし絵百科』を『国語1』（光村図書）のために書きおろしたものである。本教材は「ルビンのつぼ」等のだまし絵を3つ用いて、見方を変えると同じものでも違うものとして受け止められることを視覚的に理解させている。その上で、ものの見方や考え方を広げることで新しい発見の喜びや驚きを感じ取ることができるよう工夫されている。

具体的に本文構造を以下に図示する。



題名では、抑揚法を用いることで学習者と本作品とが効果的な出会いとなるよう工夫されている。学習者はおそらく、ちょっと立ち止まってどうなるのかと課題意識を持ちながら読むであろう。

序論部分では、話題が提示される。学習者の経験の想起と関連させることで、より身近な生活と関連させて考えることができるよう工夫されている。

本論部分では、見方を変えるという抽象的な内容を、より具体的に捉えさせるための工夫として3つの図が用いられている。それぞれの図は、図1中心に見るものを変える、図2意識を変える、図3距離を変えるという、ものの見方や考え方を広げるための具体的事例として提示されている。そして、追加の事例として日常生活との関連性を具体的に提示し、より説得力を増すよう構成されている。

結論部分では、作者は「他の面に気づくことによって新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう」と述べ、抑揚法を用いて学習者の思考をうながしている。

これらを通して、具体と抽象を区別して理解することや段落と文章全体とのつながりを理解させていきたい。そして、具体の取り上げ方が妥当なのかどうか検討しながら読むことで主体的に読む力を育てることができると考える。

本教材は、中学校学習指導要領「国語編」「C読むこと」(2)内容①指導事項 イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。」に適していると言える。

#### (4) 生徒観 (調査結果からみる課題)

入学後約一週間目を実施した進級テストでは、読み取りに関する設問として、指示語の指す内容をもとにして制限文字数以内で答えるもので、正答が17名、準正答が1名、誤答が20名となっていた。条件として、キーワードを用いるよう指示が出されている。誤答の内訳は、文として不適切な表現であるもの12名、キーワードの記入がないもの4名、指示語の指す内容の読み取りが不十分であったもの4名となっていた。このことから、設問の指示通りに適切に表現する力の定着が不十分であると考えられる。また、文章中の指示語の内容を抜き出す形式の設問において、正答が13名、誤答が21名、無答4名という結果から文章を適切に理解する力の定着が不十分であることも考えられる。

次に、主述を意識して適切な文に推敲する設問では、正答が11名、誤答が15名、無答が2名となっており、主述の整合性への理解の定着も十分なものではない。このことから、本文を適切に理解し、理解したことを適切に表現するために、何がどう書かれているのか正確に読み取る力の育成が必要である。それは、他者が何を述べておりどのような意図で述べているのか正確に理解することにつながる。

これらのことから、自分の考えを適切に表現する力を育成することは、このような課題を持つ学習者にとって必要なことである。そうした力を育てることを通して、自らのものの見方や考え方を広げていくことは大切なことであると考ええる。

本教材では、内容の正確な理解とともに自分の考えを表現していくことを学習していく。このような学習を通して、国語を通して適切に理解し表現することができるような学習者に育成したい。

#### (5) 指導観 (指導改善のポイント)

本教材は、単元「つながりを読む」の中で説明的文章の第二教材である。本単元を貫く言語活動として、ものの見方や考え方を広げるために、立場を変えて考えることとする上で適していると考え、第一教材として学習する。

本教材の段落構成は、序論部分で話題を提示し、本論部分で話題に対して3つの図を提示しながら説明し、結論部分で主張をまとめるという構成になっている。全体の構造をとらえさせながら、各段落の働きや中心文に注意しながら要旨をとらえさせていく。その際、段落の最初の言葉や接続語に注意させて、全体から部分へと読解を進めていくよう指導する。このことを通して、論理的思考力を育成する。

授業改善については、今後の学力を学習者に育成する観点から全国学力学習状況調査問題を参考にするとする。全国学力学習状況調査国語Bの問題②三では、連続型テキストと非連続型のテキストを含む複数の情報か

らいくつかを選択し、その内容から自分の考えをまとめて書く力が問われている。本教材では、本論部分で複数の図が作者の主張の根拠として提示されている。これら複数の図が、作者のどのような主張の根拠となっているのか考えさせ、いくつかを自ら選択させて、そのことについて自分はどう思うのか、自らの考えをまとめて書かせていく。こうすることで、自ら考えを持って複数の情報を選択し、自分の考えをまとめていく力を育てるよう指導するものとする。このことを通して、批判的思考力を育成する。

本教材を通して、課題発見力を育成する上で第0次を置いて指導するものとする。第0次は、導入部分の工夫であるが、学習者に本教材を通して学習の目的とその到達目標を具体的に示す。こうすることで、学習者は課題意識を自ら持ち、課題を発見しながら解決していくことができるだろう。

本教材での具体的な指導過程では、第0次での課題意識の醸成に続き、課題発見、課題追究、課題解決、新たな課題発見の構造をとる。

手だてとしては、学習のてびきを作成し、学習者の課題意識を引き出しながら指導する。

学習のてびき作成上の留意点は、本教材が説明的文章であることを踏まえ、教材の論理構造をとらえさせるとともに、本文中の問いと答えの関係についての着眼点を示す。そして、作者の考え方をとらえた上で、自分の考えと比較し、自らのものの考え方を広げることができるよう導いていく。学習の手びきにおいては、学び方や考え方を学ぶ事ができるものとなるよう、内容を工夫する。

本教材での学習過程は、結論部から問いを立てながら遡る様に読み進む逆行型学習過程をとる。逆行型学習過程を取ることは、本文の論理構造に着目することが容易になるとともに、課題発見力を育成することに適していると考えられるからである。その際、結論部分から自らを問いを立てながら課題を発見し解決していくよう学習のびきを活用して導いていく。

本教材での具体的な学習課題は、学習指導要領2内容C読むこと(1)オ「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること」を達成するために、本教材の題名読みから導いていく。題名を手がかりに「作者はなぜちょっと立ち止まってと言っているのか」「立ち止まって何をしようと述べているのか」等について課題意識を持って考えさせていくことで、学習者は課題解決をしながら作者の意図を発見し、効果的に学習目標を達成することができると思う。

単元を貫く言語活動として「ものの見方や考え方を広げるために、立場を変えて考える」こととしているので、本教材の言語活動は「なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する～」と設定する。こうすることで、普段自分の視点でとらえがちな家族であるが、立場を変えて自分が家族の視点に立ってみると、視野を広げることができる。自分にとって身近なことを生活感をもって考えさせることで、中学1学年という発達段階に則し、具体的に捉えさせることができる。こうすることで、読むことで学んだ学習方法を書くことに関連させ、読むことと書くことが相互に関連するよう指導を行っていく。

言語活動を通して作成した作品については、少人数の学習グループを編成して読み合い、お互いの学びを開き合うことでコンピテンシーを中心とした能力の育成を図る。こうすることで、双方向型の学習活動を行いお互いの学びから新たな発見を導くことができると思う。さらに、代表作品を選出しクラス全体での交流活動へつなぐことで学習のまとめとしたい。

学習の最終段階で得た新たな発見については、次の単元につなぎ学習の継続性と関連性を図るものとする。

## (6) 単元の目標と評価規準

### 単元の目標

○文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げる。

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書くこと	読むこと
① 身近なものについて説明された文章に関心を持ち積極的に理解しようとしている。 ② 段落の役割に着目して文章を読もうとしている。 ③ 自分の考えを根拠を明確にして書こうとしている。	① 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えを書こうとしている。(1) ア ② 書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしようとしている。(1) オ	① 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けようとしている。(2) イ ② 段落の役割に着目して内容や要旨を的確に読み取ろうとしている。(2) イ ③ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。(2) オ

(7) 本教材での指導と評価の計画

全5時間 (本時は2/5)

時	学習内容 (時数)	主な学習内容			資質・能力の評価	
		関	書	読		
0	<b>課題の設定</b> ・到達目標の提示 ・「なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する～」の参考例の提示	◎			・自ら課題を発見し、意欲を持つようとしている。 ・達成目標を理解する。	行動観察
1	<b>課題の設定</b> ・題名読みを通して筆者の意図を想定する。 ・学習課題と出会う。 ・段落の役割に着目して文章を読む。 ・最終段落を中心に問いと答えの関係を整理して読む。	○		◎	・身近なものについて説明された文章に関心を持ち積極的に理解しようとしている。関 ・段落の役割に着目して内容や要旨を的確に読み取ろうとしている。(2) イ	行動観察 ノート
2	<b>整理・分析</b> ・形式段落を整理する。 ・「問い」に対する「答えのまとめ」を見つけ、意味段落	○		◎	・段落の役割に着目して文章を読もうとしている。関 ・文章の中心的な部分と付加的な	行動観察 ノート

	に分ける。 ・各段落の中心文(キーワード)を見つける。 ・図と本文の対応を考える。 ・本文を構造図で表す。				部分、事実と意見などを読み分けようとしている。(2) イ	
3	<b>整理・分析</b> ・本論部分に着目し、主張の根拠となる図と本文との関係を整理する。 ・3つの図をいくつか選択し、述べ方の違いについて考える。 ・2枚目の図について、自分ならどのような事例を添えるか考え、意見をまとめる。	○	○	◎	・段落の役割に着目して内容や要旨を的確に読み取ろうとしている。(2) イ ・自分の考えを根拠を明確にして書こうとしている。 ・日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えを書こうとしている。(1) ア	行動観察 ノート
4	<b>まとめ・創造・表現</b> ・まとめ読みをする。 ・なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する～を創作する。			◎	・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。(2) オ ・日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えを書こうとしている。(1) ア	・行動観察 ・作品
5	<b>ふりかえり</b> ・表現の的確性について相互評価し交流する ・学習を振り返る。	◎			・書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしようとしている。(1) オ	・行動観察 ・作品 ・自己評価 ・相互評価

## (8) 本教材での展開

(I) 第0時の指導 (6月2日火曜 第2校時) 0. 2時間

### (1) 本時の目標

- ・到達目標の把握
- ・具体的言語活動の理解

**(2) 観点別評価規準**

- ・自ら課題を発見し、意欲を持つとしている。
- ・達成目標を理解する。

評価方法：行動観察

**(3) 準備物**

- ・「なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する～」の参考例

**(4) 学習の展開**

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導 入	・副教材「国語の学習 1」(浜島書店)による錯視例の提示	
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【本時の目標】・(到達目標)立場を変えて考えることで、ものの見方や考え方を広げよう。 ・(活動目標)なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の提示</li> <li>・到達活動目標の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆具体的に受け止めることができるよう、到達活動目標の例示を行う。</li> <li>■課題意識の喚起</li> </ul>
ま と め	・参考例の提示	■関心意欲の向上を図る。

(II) 第1時の指導 (6月3日水曜日 3校時)

**(1) 本時の目標**

・題名を主張と関連させて読む。
-----------------

**(2) 観点別評価規準**

- ・身近なものについて説明された文章に関心を持ち積極的に理解しようとしている。(関心・意欲・態度)
- ・段落の役割に着目して内容や要旨を的確に読み取ろうとしている。(読むこと) (2) イ

評価方法：行動観察・ノートの記述

**(3) 準備物**

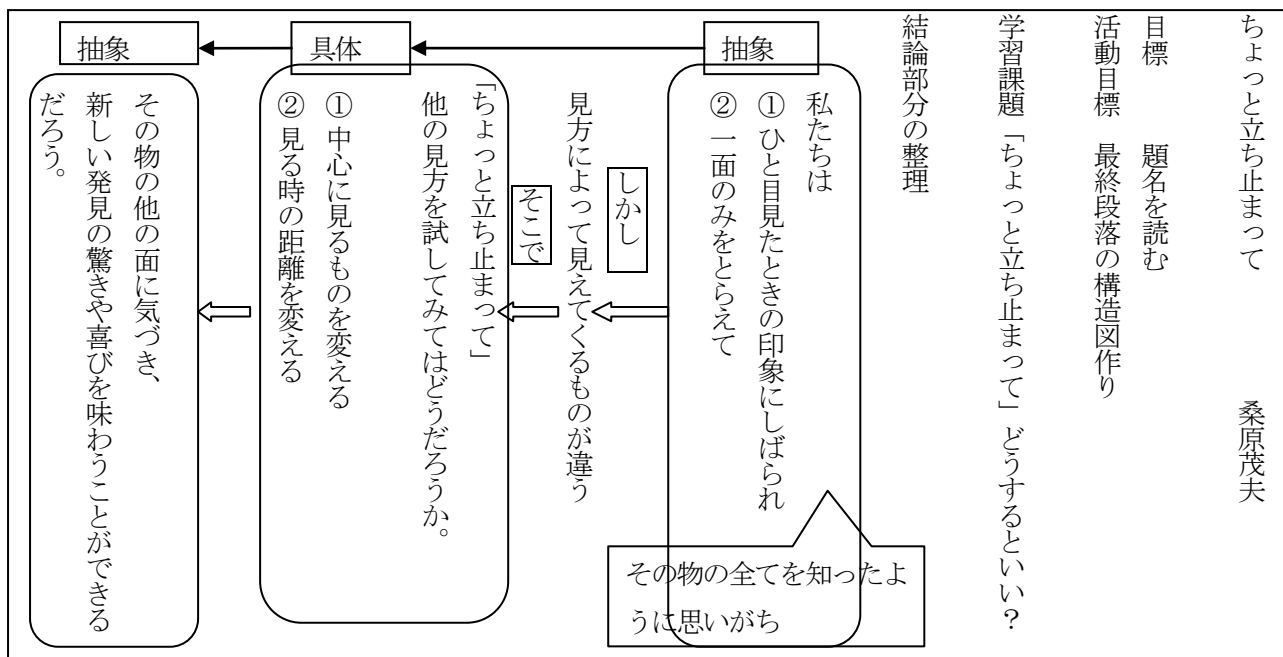
- ・学習の手びき 白板

**(4) 学習の展開**

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書きの基礎基本 (小テスト)</li> <li>・前時の復習</li> <li>・本時の目標の把握</li> </ul>	
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【本時の目標】(到達目標)題名を読む。 (活動目標)最終段落の構造図作り</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;"> <p>課題の設定</p> </div> <p>○題名読みを行い、課題意識を喚起する。</p>	■題名との出会いを通して課題意識を喚起す



<p>学習課題「ちょっと立ち止まってどうするのいいと作者は言っているのか？」について考えてみる。</p> <p><b>整理・分析</b></p> <p>○段落の役割に注意しながら全文を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落番号を振る。</li> <li>・ペアで段落読み。</li> </ul> <p>○最終段落を中心に問いと答えの関係を図にして整理する。(小グループで白板を活用する)</p> <p>問い</p> <p>「物を見るときには、ちょっと立ち止まって、他の見方を試してみてもはどうだろうか。」</p> <p>求める答え</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>① 中心に見るものを変える</p> <p>② 見る時の距離を変える</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。</p> <p>○学習課題「ちょっと立ち止まってどうするのいい？」に対する答えを確認する。</p> <p>求める答え「他の見方を試してみてもはどうだろうか。すると、他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう」</p>	<p>る。作者の考えを予測してみる。</p> <p>◆全員が参加するための工夫として、ペア読みとする。</p> <p>■学習の手びきを用いて、接続詞に着目しながら最終段落を構造化し構造図にする。</p> <p>◆問いに対する答えを整理する中で、文章の論理構造に着目させる。</p> <p>■必ずしも各グループが同じ構造図にならなくても、なぜそう考えたのか理由が説明できれば良いものとする。</p> <p>■学習課題について考え、作者の主張をまとめる。(逆行型学習過程による論理への注目)</p>
<p>ま と め</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>○振り返りと自己評価</p> <p>○次時の予告</p>	



(Ⅱ) 第2時の指導【 本時の展開 】(6月8日 月曜日5校時)

(1) 本時の目標

- ・図と本文の対応を考える。
- ・本文を構造図で表す。

(2) 観点別評価規準

- ・段落の役割に着目して文章を読もうとしている。(関心・意欲・態度)
  - ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けようとしている。(読むこと) (2) イ
- 評価方法：行動観察・ノートの記事

(3) 準備物

学習の手びき・白板

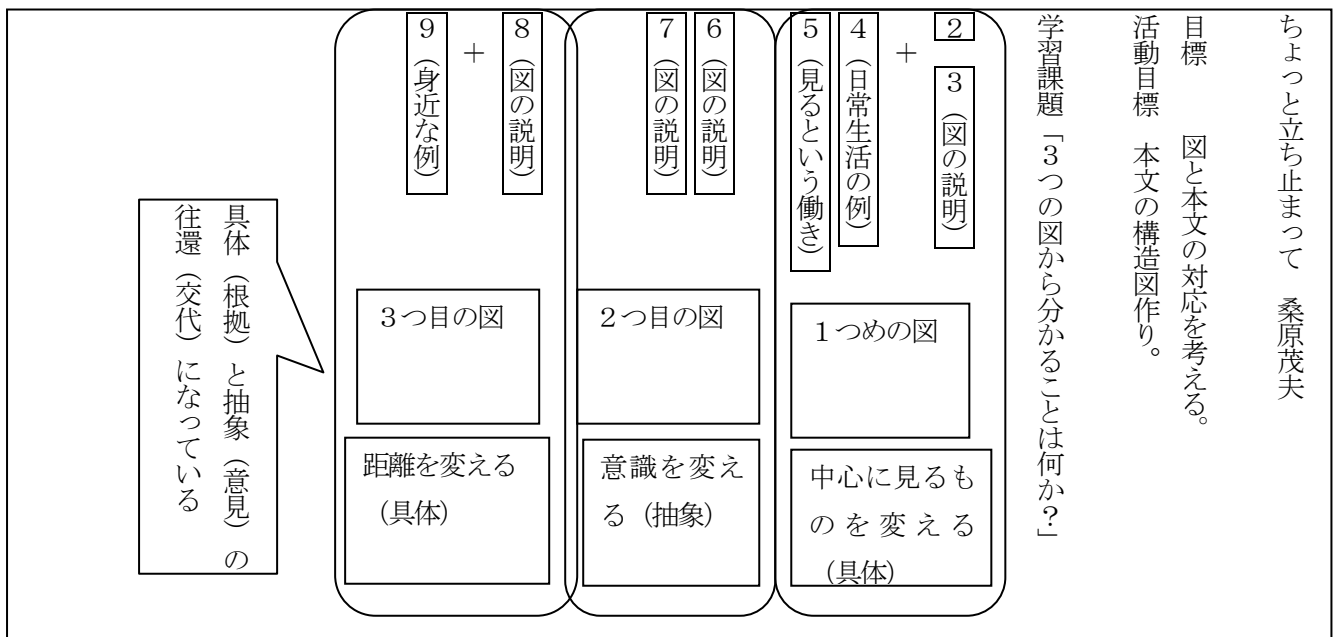
(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書きの基礎基本 (小テスト)</li> <li>・前時の復習</li> <li>・本時の目標の把握</li> </ul>	
展開	<p>課題の設定</p> <p>学習課題</p> <p>○「3つの図から分かることは何か？」</p> <p>整理・分析</p>	<p>■本文と図との対応に着目させる。</p>

【本時の目標】(到達目標)図と本文の対応を考える。  
(活動目標)本文の構造図作り。

<p>○結論部分を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一文交代読み。</li> </ul> <p>○図と本文の対応に注意しながら序論と本論部分を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで段落読み。</li> </ul> <p>○3つの図と対応する段落を中心に構造図を作成する。 (小グループで白板を活用する)</p> <p>1・2班 1つ目の図と対応する構造図 3・4班 2つ目の図と対応する構造図 5・6班 3つ目の図と対応する構造図</p> <p>○全体で交流して本論部分の構造図を作る</p> <p>○主張部分と関連して、3つの図からわかることは何か考える。</p> <p>1つ目の図：中心に見るものを変える（具体） 2つ目の図：意識を変える（抽象） 3つ目の図：見る時の距離を変える（具体）</p>	<p>◆前時の復習への意識づけとして、一文交代読みとする。</p> <p>◆全員が参加するための工夫として、ペア読みとする。</p> <p>■学習の手びきを用いて、接続詞に注目しながら本文を構造化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落番号で示す。</li> </ul> <p>◆図に対応する本文を整理する中で、文章の論理構造に着目させる。</p> <p>■必ずしも各グループが同じ構造図にならなくても、なぜそう考えたのか理由が説明できれば良いものとする。</p> <p>◆2つ目の図からわかることが何か捉えにくい学習者の存在を想定し、ペア等での学習活動も取り入れる。</p>
<p>ま と め</p> <p>ふりかえり</p> <p>○振り返りと自己評価 ○次時の予告</p>	

〈板書計画〉



(Ⅲ) 第3時の指導 (6月 日 曜日 校時)

(1) 本時の目標

- ・ 3つの図から選択し、述べ方の違いについて考える。
- ・ 2枚目の図に自分ならどんな事例を添えるか考え、意見をまとめる。

(2) 観点別評価規準

- ・ 段落の役割に着目して内容や要旨を的確に読み取ろうとしている。〈読むこと〉(2)イ
  - ・ 自分の考えを根拠を明確にして書こうとしている。〈関心・意欲・態度〉
  - ・ 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えを書こうとしている。〈書くこと〉(1)ア
- 評価方法：行動観察・ノートの記述

(3) 準備物

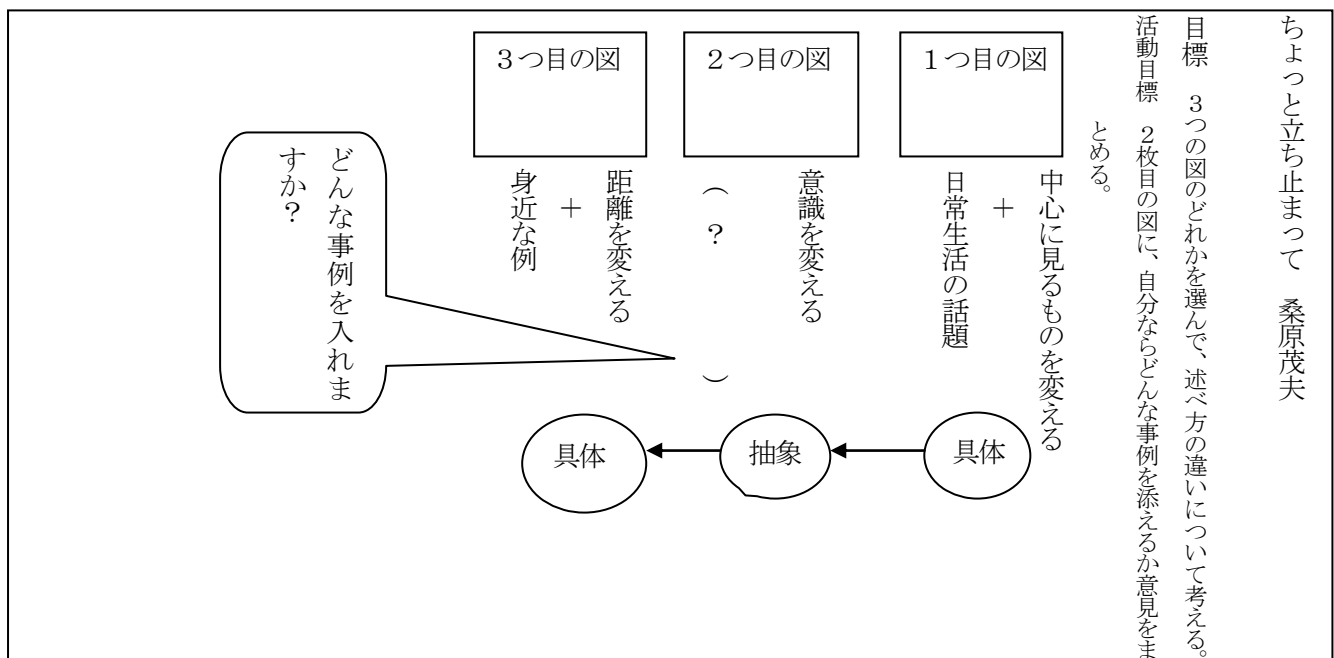
学習の手びき・白板

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字の読み書きの基礎基本 (小テスト)</li> <li>・ 前時の復習</li> <li>・ 本時の目標の把握</li> </ul>	
	<p>【本時の目標】(到達目標)3つの図とその説明のどれかを選んで、述べ方の違いについて考える。 (活動目標)2枚目の図に、自分ならどんな事例を添えるか意見をまとめる。</p>	
展開	<p><b>課題の設定</b></p> <p>学習課題 I (選択課題)</p> <p>○「3つの図とその説明からどれかを選んで、述べ方の違いについて考えよう。」</p> <p><b>整理・分析</b></p> <p>○1～3の図とその説明を各自で2つ選択し、比較し検討する。</p> <p>予想される答え</p> <p>図1と図2：図1は中心に見るものを変える。図2は意識を変える。</p> <p>図1と図3：図1は中心に見るものを変える。図3は距離を変える。</p> <p>図2と図3：図2は意識を変える。図3は距離を変える。</p> <p>○説明から考えられる具体例の仲間分けをする。 (事例と意見に分ける)</p> <p>事例：図1と図3 意見：図2</p> <p>○ペア交流</p>	<p>◆前時の段落番号で示す構造図を提示しておく。</p> <p>◆学習の手びきを配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較検討の方法を示す。</li> </ul> <p>■複数の図と説明から2つを選択して、情報を比較し検討する。</p> <p>■情報を比較検討した上で、事例と意見に仲間分けする。</p> <p>◆学習の手びき参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲間分け方の方法を提示。</li> </ul> <p>○<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</span>段落の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習者の参加意識を高めるために、ペアで</li> </ul>

<p><b>課題の設定</b></p> <p>学習課題Ⅱ（共通課題）学習のてびき配布 ○「2の図に、事例を添えるとしたらどんなものにするか」（抽象を具体化する） 小グループで白板を活用する。 予想される答え ・自分ではかわいく見える犬だが、人から見るとこわい。 ・他の人は赤いと言っている花だが、自分では濃いピンクに見える。</p> <p><b>まとめ・表現</b></p> <p>○交流し意見をまとめる。</p>	<p>一文交代読み。</p> <p>■多様な事例を生かしていくが、なぜそう考えたのか理由が説明できれば良いものとする。</p> <p>■自分の考えをまとめ、記述する。</p>
<p>ま と め</p> <p><b>ふりかえり</b></p> <p>○振り返りと自己評価 ○次時の予告</p>	<p>・自己評価表及び一言メモ</p>

〈板書計画〉



(IV) 第4時の指導 (6月 日 曜日 校時)

**(1) 本時の目標**

- ・視点を変えて考える。
- ・なりきり作文～家の人の立場で自分を描写する～を創作する。

**(2) 観点別評価規準**

- ・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。(2) オ
- ・日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えを書こうとしている。(1) ア

(3) 準備物

学習の手びき

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きの基礎基本 (小テスト)</li> <li>前時の復習</li> <li>本時の目標の把握</li> </ul>	
	<p>【本時の目標】(到達目標)視点を改めて考える。 (活動目標) なりきり作文を創作する。</p>	
展開	<p>○まとめ読みをする。</p> <p><b>課題の設定</b></p> <p>○「家の人から見たある日の自分を描写しよう。」</p> <p><b>まとめ・創造・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生き生きと表現するために</li> <li>① 会話を入れる</li> <li>② 倒置法を使う</li> </ul> <p>○ペア交流</p>	<p>■学習内容の確認のため、段落を意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>段落読み。</li> </ul> <p>◆学習の手びき配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考え方を指導する。</li> <li>視点を改めてものの見方や考え方を広げる。</li> <li>視点を改めてとらえることで、新たな発見を導く。</li> </ul> <p>■自分の考えをまとめ、推敲し記述する。</p>
まとめ	<p><b>ふりかえり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りと自己評価</li> <li>次時の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価表及び一言メモ</li> </ul>

	<p>ちよつと立ち止まって 桑原茂夫</p> <p>目標 視点を改めて考える</p> <p>活動目標 なりきり作文の創作</p> <p>学習課題 「家の人から見たある日の自分を描写しよう」</p> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 会話を入れる</li> <li>② 倒置法を使う</li> </ul>
--	--

(V) 第5時の指導 (6月 日 曜日 校時)

**(1) 本時の目標**

- ・表現の的確性について相互評価し交流する。
- ・学習を振り返り評価する。

**(2) 観点別評価規準**

・書いた文章を互いに読み合い根拠の明確さについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしようとしている。〈書くこと〉(1)オ

評価方法：相互評価・自己評価・作品・行動観察

**(3) 準備物**

学習のてびき 教材提示装置

**(4) 学習の展開**

	学習活動	指導上の留意事項及び評価 (■) (努力を要する生徒への指導の手立て◆)
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書きの基礎基本 (小テスト)</li> <li>・前時の復習</li> <li>・本時の目標の把握</li> </ul>	
	<p>【本時の目標】(到達目標)交流し評価する。 (活動目標) なりきり作文のプレゼンテーション</p>	
展 開	<p><b>課題の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「なりきり作文のプレゼンテーションをしよう。」</li> <li>・たくさんの人の作品を知ることで、視野を広げる。</li> </ul> <p><b>まとめ・表現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習班で読み合い、代表を選出</li> <li>○代表によるプレゼンテーション。</li> <li>○相互評価活動</li> <li>○感想の交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1人ずつ発表して聞き合う。</li> <li>■ 代表作品の良さを考える。 観点①具体性②述べ方</li> <li>■ 観点到則して評価する。</li> </ul>
ま と め	<p><b>ふりかえり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返りと自己評価</li> <li>○次時の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価</li> <li>・相互評価</li> <li>・学習の振り返りの記入</li> </ul>

ちよつと立ち止まって 桑原茂夫

目標 交流し評価する。

活動目標 なりきり作文のプレゼンテーション

学習の流れ

- ① 学習班で一人ずつ発表
- ② 評価の観点
  - ・ 具体例があるか
  - ・ 述べ方はどうか
- ③ 代表選出
- ④ 代表によるプレゼンテーション
- ⑤ 相互評価活動
- ⑥ 学習のまとめ
- ⑦ 振り返り





分はバックになってしまう。

この図の場合、つばを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、一瞬のうちに、目からつばの絵が消え去ってしまふ。

このようなことは、日常生活の中でもよく経験する。今、公園の池に架かっている橋の辺りに目を向けているとしよう。すると、橋の向こうから一人の少女がやって来る。目はその少女に引きつけられる。このとき、橋や池など周辺のものも全て、単なる背景になってしまう。カメラでいえば、あつという間に、ピントが少女に合わせて失われてしまうのである。ところが逆に、その橋の形が珍しく、それに注目しているときは、その上を通る人などは背景になつてしまふ。

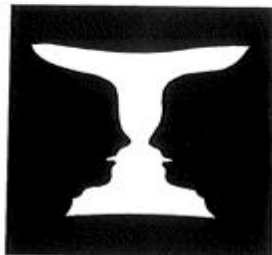
見るといふ働きには、思いがけない一面がある。一瞬のうちに、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることができるのである。

上の図の場合はどうであろうか。ちよつとすまして図の奥の方を向いた若い女性の絵と

- ① 消え去る
- ② 消え去る
- ③ 消え去る
- ④ 消え去る
- ⑤ 消え去る
- ⑥ 消え去る
- ⑦ 消え去る
- ⑧ 消え去る
- ⑨ 消え去る
- ⑩ 消え去る

# ちよつと立ち止まって

桑原 茂夫



自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえる指摘され、なるほどそうもいえるかと教えられた経験は多いことだろう。

上の図は「ルビンのつば」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見てとることができるはずだ。白い部分を中心に見ると、優勝カップのような形をしたつばがくっきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみると、すると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部

- ① ルビンのつば
- ② 優勝カップ
- ③ 二人の顔
- ④ 優勝カップ
- ⑤ 二人の顔
- ⑥ 優勝カップ
- ⑦ 二人の顔
- ⑧ 優勝カップ
- ⑨ 二人の顔
- ⑩ 優勝カップ

●本文を読んで、興味や関心をもちたところを確認し合う。

●段落と段落の関係に注意しながら、文章の構成を読み取る。



著者 桑原茂夫 一九四三(昭和一八) — 東京都出身、評論家。  
 著書 「ことば遊び百科」(アリスのティパーティー)、「図説 不思議の国のアリス」  
 「イメージの冒険(全八巻)」(編著)など。  
 出典 「だまし絵百科」を、本書のために書き改めたもの。

私たちは、ひと目見たときの印象にしばられ、一面のみをもらえて、その物の全てを知ったように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によって見えてくるものが違う。そこで、物を見るときには、ちよつと立ち止まって、他の見方を試してみようか。中心に見るものを変えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わうことができるだろう。

- ① 花を眺む
- ② 浮上
- ③ 影
- ④ 眺
- ⑤ 眺
- ⑥ 眺
- ⑦ 眺
- ⑧ 眺
- ⑨ 眺
- ⑩ 眺



見る人もいれば、毛皮のコートにあごをうずめたおばあさんの絵と見る人もいるだろう。あるいは、他の絵と見る人もいるかもしれない。

だれでも、ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、そうすると、別の絵と見ることは難しい。若い女性の絵だと思った人には、おばあさんの絵は簡単には見えてこない。おばあさんの絵と見るためには、とりあえず、今見えている若い女性の絵を意識して捨て去らなければならない。

左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。ところがこの図も、もう一つの絵を隠しもっている。目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図はどくろを描いた絵に変わってしまう。同じ図でも、近くから見ると遠くから見ると、全くと違ふ絵として受け取られるのである。

このことは、なにも絵に限ったことではない。遠くから見れば秀麗な富士山も、近づくにつれて、岩石の露出した荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすすくれた壁面のビルだったりする。

- ① 化粧台
- ② 化粧台
- ③ 化粧台
- ④ 化粧台
- ⑤ 化粧台
- ⑥ 化粧台
- ⑦ 化粧台
- ⑧ 化粧台
- ⑨ 化粧台
- ⑩ 化粧台